アグリ ワーク ポイント
AGRI WORK POINT

米

種もみ消毒と催芽

農業経営支援課　山村

今年も育苗用の種子を準備する時期がやってきました。いもち病、ばか苗病などの種子伝染病は、事前の対策が重要です。毎年の慣れている作業だからこそ、基本の手順を再確認し、健全な苗づくりを行いましょう。

資材消毒

病原菌の繁殖を防ぐため、育苗箱などの使用資材は必ず消毒しましょう。

・イチバンの500倍液に瞬間浸漬するかジョロで散布してください。

・育苗箱についてはそのまま使用できますが、それ以外の資材については、処理後風乾してご使用ください。

※イチバンは、収穫物に触れるような収穫用コンテナ等に使用しないでください。

※長時間の浸漬は避けてください。

塩水選

種子を食塩水または硫安水に浸すことで、充実したもみは沈み、稔実の悪いもみやゴミは浮きます。素早くかき混ぜた後、浮いたもみやゴミを取り除き、塩水選後は必ず流水でよく洗ってください。

塩水選の濃度（水10ℓあたり）

種別	うるち	もち
比重	1.10	1.06
並塩	1.55kg	0.90kg
硫安	1.98kg	1.10kg

種もみ消毒（田植え1ヶ月前～）

薬剤の侵透効果を高めるため、目の粗い袋に種もみを7分目程度まで詰めて処理します。テクリードCフロアブル（200倍）にスミチオン乳剤（1000倍）を加え、種子消毒を行います。種もみ1kg当たり2Lの薬液中で袋をよくゆすり24時間浸漬し、5～24時間風乾させます。

浸種

水温は10～15℃とし、水温積算温度（水温×日数）で100～120℃（水温10℃で10～12日間）を目安にします。酸素補給のため1～2日おきに水を交換し、ときどき種もみを攪拌して水温や酸素吸収の均一化をしましょう。※低水温での浸種は発芽にムラが生じます。

催芽

浸種終了後、水を入れ替えて催芽します。水温は28～30℃とし、15～20時間加温してハト胸程度にします。